

1996年3月13日第3種郵便物認可 1997年1月27日発行（第2・4月曜日発行）

News Source of Educational Audiology

会員の誌代は会費に含まれています

聴能情報誌

みみだより

第316号

第3巻

通巻401号

編集・発行人：みみだより会、立入 哉 〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2150-1-1-203 電話：0298-41-7069 FAX：0298-41-5682

平成9年度予算に字幕放送制作補助費1億2千6百万円！

平成9年度予算政府案にかねてから私たちが強く要望しておりました字幕放送字幕制作補助金の予算が一般会計から1億2千6百万円付きました。これは従来
の通信・放送機構の基金による字幕制作補助費の約7倍にあたるものです。また
この通信・放送機構の補助費も継続されますので、大幅な増額になります。

全難聴は今年のはじめから、全国で字幕放送拡充の国会請願署名運動を呼びか
け、6月には40万5千名の署名が集まり、この請願が全会一致で採択されると
いう大きな成果を上げました。これを受けて、郵政省は上記の字幕制作補助金を
概算要求し、また全国で字幕放送が見られるようにテレビ放送免許制度の改定を
準備しています。

11月になり、政府財政緊縮の折から、新規事業である字幕制作補助費予算が
難しいという情報から、急きょ27日は自民党予算税制関係議員に理事長が各協
会からの要望書を持って要請するとともに、29日には理事長が堀之内久男郵政
大臣に面会の上、強く要望しました。12月17日には、熊本県で開催された字
幕放送シンポジウムで採択されたアピール文を衆・参両院の通信委員に送付する
など全力を傾注して参りました。

この結果、通信委員会の議員も郵政大臣に要望され、郵政省当局も精力的に動
いて、こうした大きな成果となったものです。

これまで字幕放送の拡充にご支援いただいた全ての方々、団体、関係機関の皆
さまに心から御礼を申し上げます。

これで、字幕放送の量的拡大と面の拡大が制度として図られようとしておりま
すが、国め補助金は半額しか出ませんので、残りを民放、番組スポンサーに字幕
制作費を負担していただくこと、ローカル局に対しては字幕放送実施のための設
備導入などを働きかけを強める必要があります。

(社) 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
理事長 高岡 正

文字多重放送特集

文字多重放送というのは、通常のテレビ放送の電波の隙間を利用して、文字情報を放送するものです。実はもう10年以上の歴史がありますが、あまり広まってはいません。様々な生活情報の他、聴覚障害児のための情報提供番組もあります（「みみだより307号」NHK：ハローウィンドウ・みみ〔210#〕）。

こうした情報提供の他に、日本語字幕を流しています。字幕放送はオープンキャプション・クローズドキャプションの2種類があります。オープンキャプションは映画館で見る洋画のように映像に字幕が入っているもの、クローズドキャプションは普通のテレビで見ていると字幕が見えませんが、専用の受信機（文字放送デコーダ）を用いると字幕が画面に出てくる方式です。日本でのテレビ放送では、日本語字幕をこのクローズドキャプションで放送していますので、字幕を見るためには専用の受信機が必要となります。

また、一般の情報提供番組と区別して、各テレビ局共通で、〔999#〕を字幕放送専用としています。文字放送デコーダに〔999#〕と打ち込むと、普通のテレビ画面も写り、その上にせりふを重ねた字幕入りの番組となって見ることができます。字幕放送が行われている番組は非常に限られており、新聞のテレビ欄に☒と書かれている番組のみ、字幕付きで見ることができます。

文字多重放送の受信は以下の2つの方法があります。

- 1) 文字多重放送受信アダプタを使う
- 2) 文字多重放送受信装置内蔵テレビを使う

前記しました通り、字幕の文字は電波の隙間を使って送信するためにビデオデッキによっては文字の情報が録画できないということがあります（右図参照）。もし、字幕が入った状態で録画をするようなことがある場合は、①文字多重放送受信アダプタを使うか、②文字多重放送画面の録画用端子を持っているテレビを選ぶことが肝要です。

参考) ★は比較的使いやすいお薦め機種

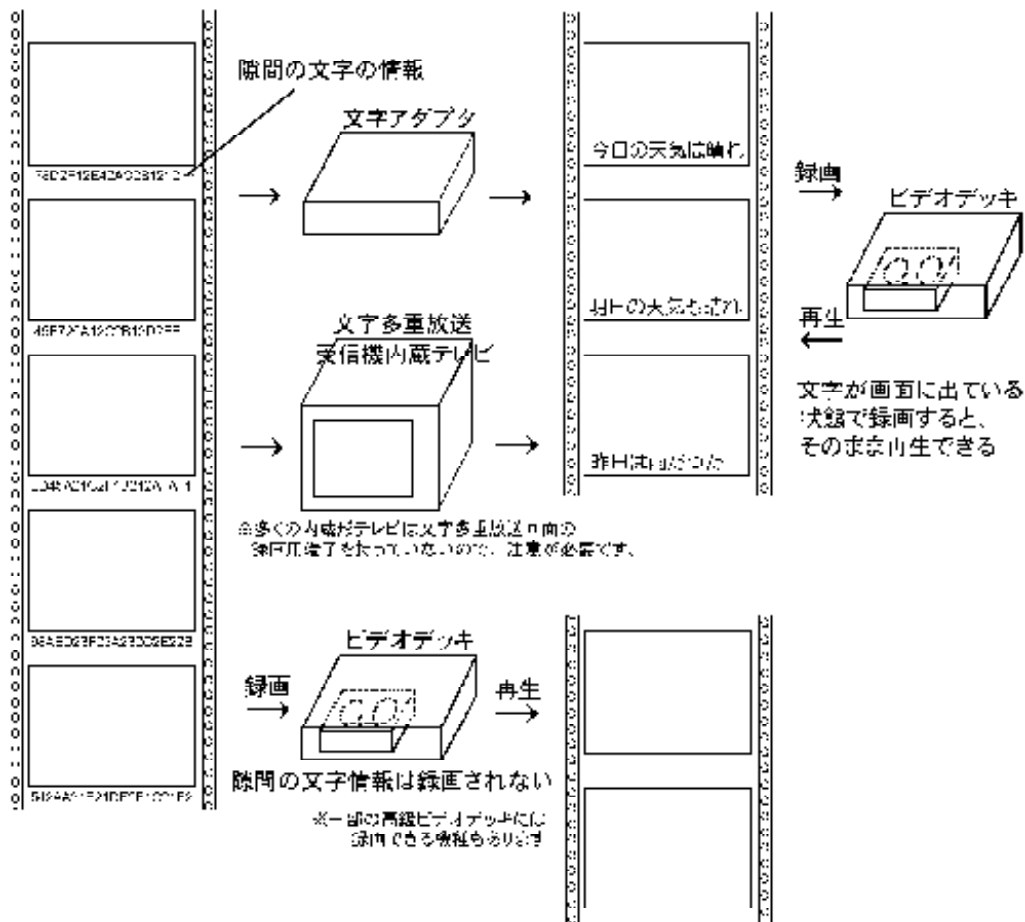
・文字多重放送受信アダプタ

パナソニック	：★TU-TX100／¥79,000、TU-TX80／¥55,000
東芝	：TT-XA700／¥109,800
ソニー	：TXT-1／¥55,000
日立	：TP-TX50／¥55,000

・文字多重放送画面の録画用端子を持つテレビ

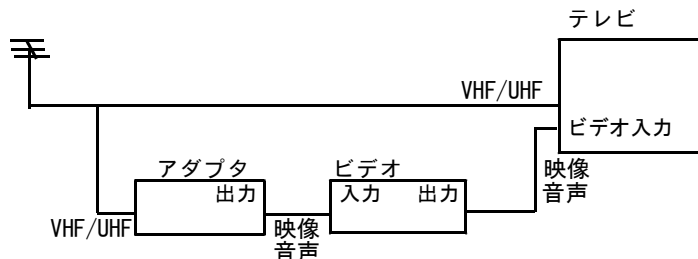
シャープ	：28型：28CWH6／オープン価格
東芝	：★21型：21R30M／¥75,000／タイマー録画が可能

※東芝 21R30Mは、「みみだより259号」で紹介しています。



《文字多重放送アダプタの接続》

文字多重放送アダプタは、放送番組の映像信号以外の隙間にある文字情報を文字に変換し、放送番組画面に合わせる機能をもっています。最近のアダプタは、テレビチューナーが内蔵されていますので、そのチューナーにアンテナからの信号を入れる必要があります。アンテナからの電波から文字データを取り出し、画面に合わせた後、テレビに映し出させるか、ビデオを経由してテレビに流れるように接続します。下図は字幕付き画面をタイマー録画できるような接続例です。

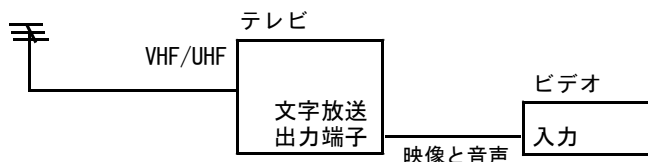


ビデオの入力選択は常に「ライン」などの外部機器からの映像が映る状態にしておきます。テレビで字幕付きの番組を見る場合は、すべての電源を入れ、テレビの入力選択を「ビデオ」に切り替えます。字幕付き番組のチャンネルを変えるときは、アダプタのチャンネルを操作します。字幕付き番組を見ていて録画したい場合は、ビデオの録画ボタンを押せば録画できます。タイマー録画する場合は、アダプタの電源を切らずにしておくか、ビデオの「連動」AC出力から電源をとるようにします。

接続方法に自信がなければ近くの電気店で購入し、接続をお願いすることもできるでしょう。文字多重放送アダプタは、録画ができ、今まで使っていたテレビが利用できる利点がありますが、接続が難しいこと、字幕付き番組を見るために3つのリモコンを使わなくてはならないといった不便さがあります。

《文字多重放送受信装置内蔵テレビの接続》

文字多重放送受信装置内蔵テレビで、字幕付きの番組を見る場合は、リモコンの「字幕」ボタンを押すだけで良く、簡単に字幕付き番組を楽しむことができます。また、「文字放送出力端子」が付いているテレビでは、アダプタに比べて、簡単にタイマー録画をすることができます。



ビデオの入力選択は常に「ライン」などの外部機器からの映像が映る状態にしておきます。字幕付き番組を見ていて録画したい場合は、ビデオの録画ボタンを押せば録画できます。タイマー録画をする場合は、テレビの電源をビデオの「連動」AC出力からとるようにします。テレビを録画したい番組のチャンネルにセットし、ビデオを通常のタイマー録画すれば、時間が来るとテレビの電源が入り、文字放送の映像がビデオに流れるようになります。しかし、テレビの電源をビデオの「連動」AC出力からとるように接続すると、ビデオを使わない場合もビデオの電源を入れる必要があります。

文字多重放送受信装置内蔵テレビは、字幕放送を見たり、録画するには都合の良い方法ですが、現在、市販されている機種は2機種しかなく選択肢が狭いこと、店頭にある例はまずないので、実際に試してみることができないこと、取り寄せに時間がかかるほか、値引きの交渉がしにくいなどの問題もあるようです。

文字多重放送、特に字幕付き放送の受信については、電気店でも余り知られておらず、店頭で聞いてもわからないことがあります。このような場合は、それぞれの製造メーカーの「お客様相談室」などに聞き、適切な販売店を紹介してもらおうと良いかも知れません。

新製品紹介

文字放送内蔵型テレビがあれば「予約録画」できるビデオデッキ

東芝から発売されているビデオデッキ「A-BS6」（標準価格140000円）はなかなかのすぐれもの。最新の機能があるが、なんといっても「モジネット（文字放送）信号保存」の機能が目を引く。

★「モジネット（文字放送）信号保存機能」とは

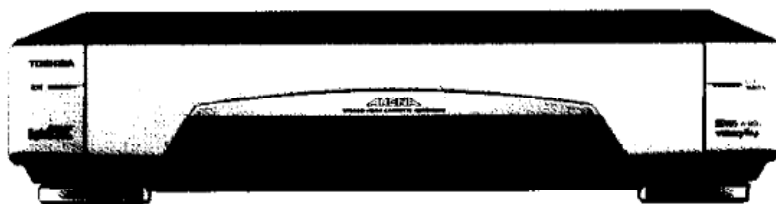
文字放送デコーダ（チューナー）がなくても、字幕放送を録画できる字幕放送（文字放送）はテレビの電波の隙間にその信号が含まれており、普通のテレビやビデオデッキだけではこの「隙間に入った文字情報」を受信することができません。そのため、「アンパンマン」などの字幕付き番組をテレビで見ても、またビデオで録画しても、字幕を表示させることはできず、専用のチューナー（文字放送デコーダ）が必要でした。

しかし、このビデオデッキ（A-BS6）は、隙間に入った文字信号も一緒に録画することができる機能を持っていて、字幕放送デコーダなしでも字幕放送を録画できます。（ただし、S-VHS方式で録画した場合）。

字幕放送を録画できても、再生するときは文字放送内蔵型テレビが必要です。文字放送信号を保存する機能はありますが、「文字放送チューナー内蔵のビデオデッキ」ではないことに注意が必要です。A-BS6はあくまで隙間の信号（文字放送）もテレビの信号も一緒に録画できる機能があるビデオデッキですが、文字放送（字幕放送）をテレビ画面に表示させる機能は備えていません。つまり、字幕放送を録画したビデオテープを再生させ、字幕を表示させるときは「文字放送デコーダ」が必要になってきます。さらに、東芝に問い合わせたところ、「A-BS6のビデオデッキで再生したときのみ動作保証します」とのこと。他メーカーのビデオデッキで再生した場合にも字幕が表示されることもあるようですが、東芝としてはA-BS6での再生のみ保証しているそうです。

すでに「文字放送内蔵型テレビ」を購入された方にはおすすめかも？。文字放送内蔵型テレビの多くは文字放送の出力端子がないものが多く、字幕放送の録画ができない機種が多いのが実状です。出力端子があっても「予約録画」に工夫が必要になってきます。そんな方にはおすすめのビデオデッキかもしれません。

（大阪市立聾学校聴能研究班発行「みみより情報」325号より許可を得て転載）



東芝A-BS6 詳細は、東芝ビデオプロダクツジャパン（株）

〒105 東京都港区芝浦1-1-1 TEL:03-3457-8552



文字放送デコーダがなくても字幕を見ることができる
オープンキャプション **字幕付きアニメ番組がスタート**

アニメ「おれは直角」(関西テレビ) 毎週土曜日午前5時30分～6時

1月11日(土)から文字放送デコーダがなくても字幕がついているアニメ番組がスタートした。土曜日の早朝のため、放映時間視聴することが難しいかもしれないが、字幕付きの番組のため、そのままビデオに録画しても字幕がついた状態で録画が可能。数少ない字幕があるアニメとして紹介したい。(※関西テレビのエリア外では視聴不可)



枚方市の公民館に
赤外線システム・字幕挿入システム導入

今月21日にオープンする枚方市の新しい公民館(菅原公民館)のホールに難聴者向けの赤外線システム「アシストホーン」が導入されます。騒音が多いホールでの聞き取りは補聴器を装着しても非常に難しい現状がありますが、赤外線の受信機を介して補聴器に音を届ける補聴援助システムで、この1、2年多くの劇場や会館で導入されています。赤外線方式は、コードレスヘッドホンにも利用されているように、非常に音質がよいことは周知の事実です。

さらに、ホール以外の会議室や多目的ルームでも赤外線システムを利用できるような移動型の赤外線補聴システムも導入されました。キャスター付きのラックにシステム一式が入り、健聴者には小型のスピーカで拡声し、難聴者には赤外線システムが活用できるもので、館内のどの部屋でも簡単に移動させることが可能とのこと。また、3階「映像工房」には聴覚障害者用字幕ワークシステム(枚方市の広報にこのように明記されている)が設置され、字幕挿入もできるそうです。

何ともうらやましい限りだが、市民が気軽に利用できる公民館にこのような設備があるということは、聴覚障害者への配慮がよく行き渡っていることの現れともいえるでしょう。同公民館は、枚方市の7番目の公民館となっているが、大阪市の区役所や区民ホールの中にこのような設備を導入したという話は聞いていません。

(大阪市立聾学校聴能研究班発行「みみより情報」326号より許可を得て転載)

ひとことニュース

- ★ オリックスレンタカーが障害者割引を開始。同社の営業窓口で身体障害者手帳を提示することで、レンタカー料金が半額になる。詳しくは、TEL:03-3779-3998。
- ★ 福島県議会傍聴席にループ席新設。福島県中途失聴・難聴者協会からの要望に応え、工事費130万円(!)で設置。230席の傍聴席の内、40席をループ席とした。

★福島智さんが金沢大学助教授に

金沢大学教育学部障害児教育講座の助教授に盲ろう者の方が就任されました。福島智さん(34)で全国盲ろう者協会理事であり、96年7月からは東京都立大学の助手をされていました。福島さんは1962年に神戸市で生まれ、5歳の時に右目を、9歳の時に左目を失明。1981年に突発性難聴により失聴しました。1983年に東京都立大学に進学、その後大学院に進み、国立身体障害者リハビリテーション学院の非常勤講師などを経て東京都立大学の助手をされていました。専攻は盲ろう者・児のコミュニケーションを中心とした教育学で、聾学校の教員を養成している大学だけに注目されます。

(情報：日本聴力障害新聞1月号)

案内

第19回 「耳の日」記念大会(大阪)

1. と き 2月23日(日)午後0時40分開会
2. と ころ 大阪国際交流センター(天王寺区上本町8丁目)
近鉄上本町駅から徒歩5分/地下鉄谷町9丁目駅下車徒歩10分
3. 主 催 社団法人大阪聴力障害者協会
4. 後 援 大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、
(社)大阪府社会福祉協議会、(社)大阪市社会福祉協議会、
(社)大阪身体障害者団体連合会(以上予定)
5. 協 賛 大阪市立聾学校、大阪府立生野聾学校、大阪府立生野高等聾学校、
大阪府立堺聾学校、大阪手話通訳問題研究会、大阪手話サークル連絡会
(社)大阪聴力障害者福祉事業協会(以上予定)
6. 内 容 ◆記念講演「盲・ろうの教師として生きる」
講師：石黒 昌道氏(栃木県立ろう学校教諭)
◆手話落語「大喜利」
出演：桂福団治手話落語門下生
◆聴覚障害者の生活に役立つ機器展
7. 整理券 前売り整理券(大人2500円/小中高生1000円)
当日整理券(大人3000円/小中高生1000円)
なお、展示ギャラリーは無料

お問い合わせ：(社)大阪聴力障害者協会
大阪市中央区谷町5-4-13 府谷町福祉センター内
TEL:06-761-1394 FAX:06-768-3833

(大阪市立聾学校聴能研究班発行「みみより情報」325号より許可を得て転載)

研究会開催

日本聴覚障害・教育工学研究会マルチメディア部会関西例会 「教育現場でのマルチメディアの使用例と 今後の動向に関する討論」

現在、バーチャル・コミュニケーションとしての情報通信メディアの発達は、予測のつかない程の驚異的な進化が行われています。これに対して、「スマートパレイ・ジャパン」の構想を始め多数の計画が進行しています。これらの動向に対処するためにも、先生方のニーズ・考え方等をお互いに提出し、討論を経て、より理解を深めると共に、今後の進路を見いだすための一助としたいと思います。

1. 日 時：2月8日（土）13時～17時
2. 場 所：大阪市立聾学校 高等部産業工芸科製図実習室
大阪市中央区上町1-19-31 TEL:06-761-1419・06-761-1424（FAX兼用）
3. 講 演：①「教育現場でのマルチメディアの使用例」
講師：多田 幸浩 先生（大阪市立聾学校教諭）
②「マルチメディアの今後の動向」
講師：高橋 秀知 先生（筑波技術短期大学教授）
③「2講演に対する質疑・応答及び今後の活動方針の検討」

関心をお持ちの先生方の積極的なご参加を期待しております。

日本聴覚障害・教育工学研究会マルチメディア部会長 高橋 秀知
幹事 内藤 一郎

<連絡・問い合わせ先>筑波技術短期大学電子情報学科 内藤 一郎
TEL:0298-58-9392 FAX:0298-58-9394
E-mail:naito@atsukuba-tech.ac.jp

研究会開催

第75回難聴言語障害研究会のお知らせ

話題：聴覚に障害を持つ人とのコミュニケーション その2

1. 軽・中等度難聴児者のコミュニケーションストラテジー
原 由紀（北里大学医療衛生学部言語室）
2. 聾学校におけるコミュニケーション手段活用の実態
早島 千恵（大分県立聾学校、国立特殊教育総合研究所）
（敬称略）

日時：平成9年2月8日（土）午後3時～5時30分

場所：神奈川県医師会館1階 ホール（TEL：045-241-7000）
桜木町駅下車徒歩5分・紅葉坂登り口右折れ：県立音楽堂下

 新刊図書

福祉が変わる 医療が変わる

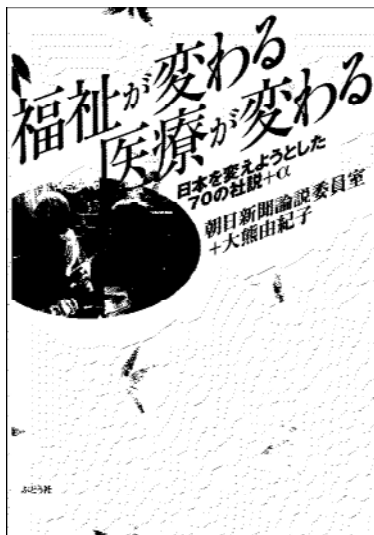
日本を変えようとした70の社説+α

本書の著者は「朝日新聞論説委員室+大熊由紀子」である。また副題からもわかるように、本書は、新聞でもっとも硬い、あの社説が中心になっている。社説は朝日新聞が世に問うべき時々の課題を明らかにしたとも言えようが、本書では社説のみではなく、その社説を明らかにするまでの経緯として、資料や参考文献を豊富に紹介しているところに価値とおもしろみがある。

こうして見ると、福祉・医療分野に対する社説の量の多さと内容の深さ、指摘の正しさを改めて知ることができる。

例えば、STに関する記述である89年の社説は今も新しい。「医師の指示のもと」で働くSTではなく、「誇りある専門職」としての訴えは、まさに理にかなう当然の指摘と思える。その他、難聴に限らず、福祉・医療に対し、何を考え、何をしていけば良いかの見直しと指針を与えてくれる書である。

朝日新聞論説委員室+大熊由紀子著、ぶどう社刊、1,800円。



 新刊図書

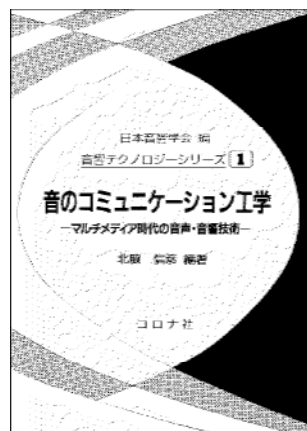
音のコミュニケーション工学

—マルチメディア時代の音声・音響技術—

世の中の音響製品の仕組みがわからなくなった。MDに至っては驚くのみである。本書は、こうした最新の音響技術についての概説書である。音声分析・音声認識・マイクロホンアレー・ハウリング抑制・帰還補償・音場シミュレーション・音場制御・音場創成・音声の品質・音響の品質・マルチメディア通信の品質など最新のテーマについて、専門用語を避けた記述がなされている。最新の音響テクノロジーに触れられる良き専門書である。

北脇信彦編著、コロナ社刊、3,811円。

なお、本書は「音響テクノロジーシリーズ」の第1回配本であり、今後、続刊が予定されている。



テレビ

手話のキャンパス

～アメリカ聾大学の青春～

1月15日、21:30～22:45の時間、NHK衛生第一放送で、「手話のキャンパス～アメリカ聾大学の青春」が放映された。

この番組では、アメリカの聾者のための総合大学ギャローデッド大学を舞台に学生たちの社会進出への熱意と行動をレポートするとともに、アメリカ社会と聾者との現状を伝えている。

主にギャローデッド大学のコンピュータ学科、テレビ・演劇学科や、就職センターの映像を中心にまとめられている。番組名とどういう関係があるのかわからないが、番組後部でアメリカでのキュードを使った幼児教育の場面も出てくる。おそらく、手話との対立で口話法としてのキュードを取り上げたのであろうが、むしろ、ベル協会やAVI (Auditory Verbal International) といった活動も取り上げて欲しかった。

放送内容に対する御意見は下記まで。

〒150-01 渋谷区神南2-2-1 NHK衛生放送局衛生第一
テーフプロデューサー 須磨章様 (FAX:03-3481-1344)

★ギャローデッド大学、ベル協会、AVIについては、
下記のインターネットホームページをご参照下さい。

ギャローデッド大学	http://www.gallaudet.edu
アレキサンダー・グラハム・ベル協会	http://www.agbell.org
AVI	http://www.auditory-verbal.org

その他、日本の聴覚障害教育関連ホームページ

国立特殊教育研究所	http://www.nise.go.jp
筑波技術短期大学	http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp
大阪市立聾学校	http://www.osakarou-sfd.chuo.osaka.jp
兵庫県立神戸聾学校	http://www.koberou-sfd.tarumi.kobe.jp
東京都立大田ろう学校	http://www.ohtaou-sfd.ohta.tokyo.jp
福岡県立福岡聾学校	http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/narita/komiya/fukuoka_school.html
佐賀県立ろう学校	http://www.saga-ed.go.jp/school/edq10040/index.html
石川県立聾学校	http://kidsnet.jeims.co.jp/ishikawa/ken-rou/index.html
日本聾話学校	http://village.infoweb.or.jp/-fwga1186/index.htm